

近藤一さん

1920(大正9)年生まれ

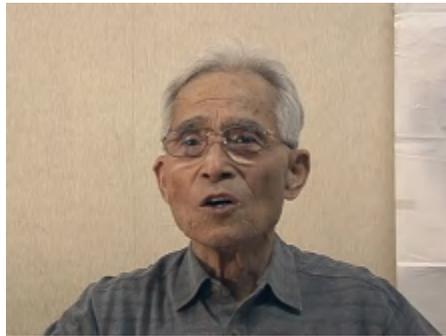
当時の本籍地 三重県

陸軍

所属 62師団独立歩兵第13大隊

戦地 嘉数(かかず、現宜野湾市)

摩文仁(現糸満市)



●1940(昭和15)年12月 独立混成第4旅団に現役入営、中国山西省で討伐作戦に参加

●1944(昭和19)年 沖縄へ、嘉数(かかず)で陣地構築にあたる

沖縄っていうのはどういうところでどういう歴史があるとか兵隊は何もしらないです。沖縄の風土、くらしは一切教えられていません。兵舎に分かれて分宿した時に初めて沖縄の人たちと接して兵隊に芽生えたと思います。

食べ物は当時今の沖縄と違ってさつまいもが主食なんですね。芋と豚が出てきてタピオカも食べました。直感的に沖縄の人は芋を食べてるのか、米を食っている人間と違うんだなと差別意識があった。兵隊は口には言わないがそういうのはあった。それからトイレ、人間の排せつ物で豚を育てている。中国も同じだった。中国と沖縄は同じなのかと感じた。表面だつては言わないけど、沖縄はこんなのかと差別意識があったと思う。子供時代に南洋土人の話があったけど、沖縄は頭の上に壺をのせて運ぶので同じだと話していた。沖縄独自の料理、豚は最初抵抗があったがだんだん食べてこんなおいしいものはないと感じた。知らないというのは本当に恐ろしいことです。独特な文化で、良さを分かってくるけど、最初は知らないから偏見の目で見てしまう。残念なことだけど。

●1945(昭和20)年4月1日 米軍沖縄本島に上陸

米軍は決まって朝の8時から2時間砲を集中して目標を攻撃する。そして戦車を先頭にして進んでくる。普通の陸軍の戦いは戦車対戦車をやってそのあと歩兵同士になる。ところが沖縄では戦車と歩兵の戦いになる。それに対する抵抗は肉薄攻撃隊だけ。ダイナマイトを抱えて戦車にぶつかっていく。その戦闘しかないんです。戦車には10人くらい乗っている。それを狙撃するんですね。アメリカ兵は歩兵を下げるんですね。それがつけ目。死角があるので、そこに肉薄するんですね。アメリカ兵が戦車から出てきたところに手榴弾を投げ込むみたいな、その繰り返しなんですね。戦車を爆発させて自分も巻き込まれて死んでしまうとか見ましたよ。そのあたりの死んでいる日本兵はぐちゃぐちゃで無残な死に方でした。これが沖縄戦の実態です。

当時、米軍が火炎放射を使うようになってきた。払っても燃えている炎が消えないそうですね。翌日パンパンに膨れ上がったまっ黒けの死体が転がっている。弾で死ぬのはまだいいけど火炎放射機ではやられたくないと兵隊仲間であって言っていました。やられたアメリカ兵は「ママ、ママ」と声が聞こえる。「息が漏れます」という兵隊の声に振り向くと、わき腹が半分とんでいる。戦死するまえに「お母さん」という。日本もアメリカも変わらない。

たくさん壕に負傷者もいるし、後方のほうに退却、退却とは言わずに陣地変えの命令があったと、私は聞いていないのですが。死守せよという命令だったから。大本営からいわれているのは、1日でも10日でも持ちこたえることが命令だから、南へさがれということになったそうですね。いよいよもうだめか。中隊長が俺の責任でさらに南へ脱出だと決断した。自分の戦友を残して一人ひとり雨にまぎれて移動した。

避難民がたくさんいた。数十名がへばりついているの。戦略上一番いいところなの。そこにいったらV字型の大きな割れ目があってそこに沖縄の人がへばりついているの。ここは戦場になります。戦場になれば皆死んでしまいます。まだ南の海岸のほうが安全ですからと言いました。壕の追いだしは日本軍が悪いと言われてますが、私のやったのは沖縄の人を守るためにやった。ここは危ない、海岸線のほうが安全ですよ普通の会話でやったの。銃剣で追いだしたのではないの。人によっては、追い出されたと言う人もいたの。でもあんたは軍隊のことをわかっていないの。軍命令で陣地確保をして、戦場になるから危険だと穏やかな話で言ったの。沖縄の人によっては、「追い出した」という人もいる。穏やかに話したことは、私の信念。

●米軍の捕虜に

われわれは歩兵だから突撃しようとなった。わっと声をあげたと思うんですよ。声でてないかもしれないけど、よたよたしていましたが、バツと一斉に撃たれて倒れてやられたと思った。石かなんかに躓いたのか倒れて助かった。米兵がきた。これは殺される。中国で我々はそうしていたから。殺される前に一番自分がやりたいことを考えたの。一番水が飲みたかった。水筒の水を飲もうとしたら、黒人だと思うんですけど水をくれたの。中国で捕虜を「このちゃんころめ」といって殺してきたらかそう思ったけど、「ウォーター」と言って水をくれた。タバコのライターの火までくれた。軍隊はそういうものだと思っていたのに違った。

(取材日:2007年12月10日)